鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第64号　H23．8．29

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

# 鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

## 9月の行事予定

| 9 | | 月 |
|---|---|---|
| 1 | 木 | **前期末考査（4日目）** 中掃除 |
| 2 | 金 | 1年マスゲーム(6,7限) |
| 3 | ㊏ | 悠学講座③ |
| 4 | ㊐ | |
| 5 | 月 | 全校朝会<br>2年マスゲーム(6,7限) |
| 6 | 火 | 3年実力考査時間割発表<br>集団訓練(7限) |
| 7 | 水 | 1，2年合同練習(5,6限)<br>体育祭各係会(7限) |
| 8 | 木 | 体育祭準備・予行(3年1限授業) |
| 9 | 金 | 体育祭予行予備日　学校安全の日<br>1，2年合同練習(6,7限) |
| 10 | ㊏ | **第63回体育祭** |
| 11 | ㊐ | 体育祭予備日 |
| 12 | ㊊ | 体育祭代休日 |
| 13 | 火 | **3年実力考査(1日目)** |
| 14 | 水 | **3年実力考査(2日目)**<br>学年会 |
| 15 | 木 | |
| 16 | 金 | 第4回職員会議 |
| 17 | ㊏ | 悠学講座④ |
| 18 | ㊐ | |
| 19 | ㊊ | 敬老の日 |
| 20 | 火 | **月曜の授業** |
| 21 | 水 | |
| 22 | 木 | |
| 23 | 金 | 秋分の日 |
| 24 | ㊏ | |
| 25 | ㊐ | |
| 26 | 月 | **前期終業式**　大掃除 |
| 27 | 火 | 秋季休業日 |
| 28 | 水 | 秋季休業日 |
| 29 | 木 | 秋季休業日 |
| 30 | 金 | 秋季休業日 |

## 修学旅行報告

二学年主任　木下　一浩

平成23年7月15日18時56分、九州新幹線さくら395号は予定通り鹿児島中央駅のホームに到着、各車両では、旅の疲れをものともせず、元気いっぱいの談笑する生徒諸君の声が最後まで絶えることはなかった。しかしながら私を含む引率の先生方は、無事に修学旅行が終わろうとする安心感と三日間の疲れが同時に出て、ただひたすら眠かったに違いない。

平成23年度の修学旅行は、行き先を関西方面とし、7月13日（水）～15日（金）の二泊三日で実施された。当初の予定では、関東方面でのGO鶴セミナーを柱としたものであった。しかし3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、三月末時点で夏場の関東圏の深刻な電力不足が予想されて、諸活動への影響が大いに懸念されたため、修学旅行実施までの約三ヶ月、各機関にアドバイスを頂きながら、直前まで何度も計画を練り直し、何とか本年度の修学旅行の形を作ることができた。東京でのGO鶴セミナーや東大見学などを楽しみにしていた生徒諸君にとっては内心残念な想いもあっただろう。しかし二学年の諸君全員が、関西方面の修学旅行にしっかりとした目的意識をもって取り組み、結果として大きな成果を上げることができた。紙面を借りてではあるが、今回の修学旅行に関わったすべての方々に感謝の意を表したい。

7月13日6時30分、多くの先生方の見送りの中、予定通り学校から鹿児島空港へと向かい、飛行機に乗り込むことができた。この旅行の様々な場面で生徒諸君は概ね機敏な集団行動ができていたと思う。これは今回の修学旅行で大いに誇って良いことの一つである。一時間余りで飛行機は伊丹空港に到着。その後1・6Rは「インスタントラーメン発明記念館」、2・4・5・7Rは「なにわの海の時空館」へと移動。途中、大阪市の中心を南北に縦断する国道、御堂筋が車窓から確認できた。全長4キロ、六車線全て一方通行道路であるという説明を受け、そのスケールの大きさに圧倒された。クラス毎に約一時間の研修を終えた後、バスはユニバーサルスタジオジャパンへ向かった。天気も良く、各アトラクションの待ち時間は数分～最大30分と適度な混み具合であった。

あった。生徒諸君は若いエネルギーを爆発させ、各アトラクションをすぶ濡れになってはしごするクションを足早に巡っていく。中には“水かぶり系”のアトラクチャレンジする強者も見られた。19時前、名残惜しそうな顔の生徒諸君を乗せたバスは一泊目のシェラトン都ホテルに到着。間口40m、天井高8mの大広間「浪速の間」にて全員揃ってのバイキング中、十分にお腹を満たした。食事終了後、4階チャペルにて班長会。明日の「京都自主研修」の注意事項を確認して散会した。

7月14日、修学旅行二日目。やや睡眠不足気味の生徒もいたようだが、全員揃って元気に朝食を取る姿に先生方も安堵した様子である。8時、バスにて清水寺に移動した。いよいよ「京都自主研修」のスタートである。朝にもかかわらず、容赦なく照りつける日射しは強い。この日の予想最高気温は33度。事前に注意喚起はしているものの、この暑さの中、体調を崩す生徒が出ないか懸念される。しかし生徒達は、それぞれの研修コースへと元気いっぱいの笑顔で出発していった。この中核となる企画研修「京都自主研修」は今回の修学旅行の変更により、自主研修の資料等が手元に届くまでに時間がかかってしまったが、それでも短い時間の中で各クラス・各班とも、よく練られた計画を立てていたようである。実際生徒諸君の感想でも、「準備から当日の研修までの学習を通して、友情を深めることができた」、「皆と協力して、楽しみながらも意義深い研修ができた」等々の声が聞かれた。研修の間、私と秋元団長は一足先に集合先の聖護院御殿荘で待機。生徒からの緊急連絡に備えたが、特にトラブル等の連絡も無く、やがて帰着時間が近づいてきた。「誰一人として修学旅行の成功に繋がる」という修学旅行の結団式で、校長先生から「話をしていただいた。それが皆の頭にあったのだろう、時間ぎりぎりになった班は、一分一秒も遅れまいと、西日が照りつける御殿荘の中で命に走って来るのである。

生徒諸君は、今回の生徒諸君感想では、全体的に意義深く非常に楽しい旅行ができたという意見が大半である。しかし同時に、自分たちの感動しました」との評価を頂くほどであった。

さて、今回の修学旅行では、事前に、添乗員の遠藤さんから「あまりの素早さ、完了するまでの所要時間ほぼ一分であったと思う。その整然かつスピーディーな乗車ぶりは、添乗員の遠藤さんから「あまりの素早さ、感動しました」との評価を頂くほどであった。

疲れは見えない。その表情は輝いている。その姿に私は今回の修学旅行の成功を確信した。その後は3班に分かれての修学旅行（坐禅・友禅染色体験・養護学校体験学習）である。お堂の中で、やや強面の3人の僧侶が警策を携えて巡回する中、生徒は指導された呼吸法で心を静め、非常に落ち着いた時間を過ごせたようである。流石鶴丸生、体が崩れて警策で打たれる生徒はおらず、逆に自ら進んで体を前倒しにし、警策で旅行最後の夜である。なかなか寝付けなかった生徒もいたのではないだろうか。

7月15日、いよいよ最終日。各部屋で朝食を済ませ玄関前に集合。バスは最後の訪問地、神戸市内に向かった。この神戸市も平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた。今回の修学旅行の目的の一つは「震災に関して深く学習し、防災意識を高めるとともに復興への思いを共有する」ということである。勿論今の神戸市街には震災の爪痕は残ってはいないが、神戸市中央区にバスが近づくと、辺り一面大規模な区画整理をしたかのように綺麗な街並みが広がっていた。この整った街並みが何を意味するのか、生徒諸君も敏感に感じ取ったはずである。やや駆け足で「人と防災未来センター」「神戸メリケンパーク」「南京町」を3班に分かれて研修。時間がない中でも「人と防災未来センター」では実際に震災を体験された新神戸駅に向かう。新大阪から新神戸駅に着く新幹線のぞみ29号の停車時間はわずかに一分。降りる乗客を待ち、事前のシミュレーションどおりに整然と乗り込む。全員が乗車完了するまでの所要時間ほぼ一分であったと思う。その整然かつスピーディーな乗車ぶりは、添乗員の遠藤さんから「あまりの素早さ、感動しました」との評価を頂くほどであった。

「喝」を入れてもらう生徒が引きも切らず、お堂の中に警策の小気味よい音が何度も響いていた。二日目の宿泊先、聖護院御殿荘は、各部屋7～8人の大部屋である。夕食は部屋毎のすき焼きで、さぞや話も弾んだことであろう。就寝時間は23時。疲れてはいても修学旅行最後の夜である。なかなか寝付けなかった生徒もいたのではないだろうか。

マナーについては厳しい意見も聞かれた。大人数での移動に、我々の目が行き届かない面もあっただろう。反省すること自体は素晴らしいが、級友らのマナーが良くないと感じたその場で諸君ができることは果たして無かったのか。鶴丸生ならそこまで踏み込んで考えてみて欲しいものである。

今回の修学旅行での学習を十分にやり遂げ大いに友情を深め、また大いに楽しみながらも、自分たちの行動を冷静に振り返ることができる二学年の生徒諸君に鶴丸生としての自覚と大きな可能性を感じる。今回の旅行で得た沢山のものを諸君が自分自身に、クラスに、学年に、鶴丸に対してどれだけ生かし発揮できるのか、そしてやがて社会にどのような形で還元していくのか。学年主任として、今から非常に楽しみである。

## 先輩に学ぶ進路講演会（1学年）

7月23日（土）、土曜悠学講座の中で1年生を対象に、鹿児島大学の3・4年生の先輩を講師に迎えて、進路講演会が開かれた。先輩方が各学部・学科の専門課程でどのようなことを学んでいるのか、その学問が社会にどう関わっていくのかということを聞くことを通して、文理選択を前にした1年生には進路を考えるよい機会となったはずだ。先輩方は、まとめとして「進路を自発的に広く研究し、自分の責任で選択すること。そして、今の時期に全力を注いで精進すること」とおっしゃった。1年生が真剣に進路探求していくことを期待したい。

## 中学生一日体験入学

8月1日（月）・2日（火）の両日、中学生一日体験入学が行われた。今年は昨年より六十二人多い、六四二名の中学3年生の参加があった。中学生たちは本校職員や生徒会執行部から学校の説明を受けた後、本校OBの、東京大・一橋大・鹿児島大生三名から高校生活の、積アドバイスを聞き、極的に質問をしていた。その後、体験授業に参加するなどして高校生活への期待に胸を膨らませていた。

## Kathryn先生　退任の挨拶

Dear Tsurumaru students,

As many of you know, soon I will return to England. Today there are three things I want to say to you.

First, I want to tell you how happy I was to teach at Tsurumaru High School for a year. It was a pleasure to teach students like you, who are very kind and respectful and determined. It's very important to work hard in your life, so I am sure you will succeed. Thank you for your hard work this year. I will miss you, but I am happy for the memories of this year.

The second thing I want to tell you is the importance of learning a foreign language. I know that English is difficult to learn and sometimes it's not fun. However, please try to learn it as hard as you can. If you learn a foreign language, you can travel all over the world, live or work in different countries and make friends in different places. If you learn a foreign language, you can understand other cultures. You can understand other people better. You can challenge yourself. When you learn a foreign language, you learn so many things. So please try hard with English.

Third, please be kind to the new ALT. His name is James and he will arrive in August. Please say hello to him and talk to him. He'll be very happy to meet you.

Finally, I want to wish you luck in your exams. Particularly, I want to wish the sannensei good luck in their university entrance exams. Please follow your dreams and work hard. I wish you all the success in the world.

Thank you and good luck for the future.

## 定期演奏会

8月18日（木）、宝山ホールで音楽部・吹奏楽部の定期演奏会が行われた。合唱のハーモニーで幕を開け、クラリネット5重奏と続き、音楽部・吹奏楽部それぞれのステージでは、趣向をこらした演出で、ときにユーモアを交えながら、芸術的な演奏が次々と展開された。最後は、OBの方々も含めた出演者全員での「ハレルヤ・コーラス」、そしてアンコールと、スティージと観客席に一体感のある演奏会であった。また、裏方として頑張った生徒会執行部や放送部の活躍も付記したい。